

表 令和8年5月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第41～51号	1日、4日 16時00分 8日 09時00分 16時00分 11日、15日、18日、 22日、25日、29日 16時00分 31日 09時30分	南岳山頂火口で噴火活動継続。8日に爆発。昭和火口では噴火及び火映はない。火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動が時々発生。火山ガス(二酸化硫黄)放出量は2,800[t/日](5/8)と多い。島内の傾斜計及び伸縮計で7日08時頃から山体膨張を示す地殻変動、8日16時15分に爆発、噴煙火口縁上3,500m、大きな噴石5合目、ごく小規模な火砕流が南東側に約600m流下。10日13時頃から観測されていた山体膨張は、12日頃から緩やかに収縮し解消。20日頃から22日頃まで山体膨張及び収縮を繰り返す地殻変動を観測。27日頃からの山体膨張を示す地殻変動は、28日頃に収集に変化し、29日昼頃から特段の変動なし。30日18時頃から山体膨張を示す地殻変動を観測。GNSS観測で、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)を挟む基線で地下深部の膨張を示す長期の緩やかな伸びがみられる。始良カルデラ深部にマグマが蓄積した状態、火山ガスも概ね多いことから、今後も噴火活動が継続すると考えられ、今後の火山情報に注意。
		降灰予報(速報)	8日 16時28分	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	8日 16時37分	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと)に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
雌阿寒岳	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第22～23号	1日、8日 16時00分	4月29日11時38分頃に振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が発生、ごくわずかな傾斜変動を観測。火山性微動の発生前後で火口周辺や噴煙の状況に変化なし。ボンマチネシリ96-1火口の噴煙活動は活発な状態が継続。ボンマチネシリ火口付近では、2025年9月から火口方向が上がる傾斜変動が継続し、火口付近浅部は引き続き膨張した状態と考えられる。ボンマチネシリ火口付近の火山性地震は、概ね少ない中で増減を繰り返しながら推移。火山活動の活発な状態が継続。今後も噴火の可能性がある。
		解説情報(臨時) 第24～27号	13日 11時30分 14日、15日、18日 16時00分	10日頃からボンマチネシリ火口付近を震源とする火山性地震が増加。11日夕方から更に増加し、前24時間の地震回数は、13日10時現在で127回、14日16時現在で254回。火山性微動はなし。火山性地震の日回数は、10日から17日までそれぞれ、25回、28回、70回、237回、202回、93回、70回、67回、18日15時まで28回。2025年9月からの火口付近が緩やかに上がる傾斜変動は、5月9日頃以降、火口付近が下がる変化に転じているが、火口付近浅部は引き続き膨張した状態と考えられる。11日に国交省北海道開発局の協力を実施した上空からの観測では、ボンマチネシリ96-1火口で火口温度の高い状態が継続。噴煙活動は引き続き活発な状況。火山活動の活発な状態が継続。今後も噴火の可能性。火山活動がさらに高まった場合は、噴火警戒レベル引き上げる可能性がある(15日まで)。火山性地震は、14日夕方以降は減少傾向で、火山活動のさらなる活発化は認められなくなったが、今後もボンマチネシリ火口から500mの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性がある。(18日)

令和8年5月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
雌阿寒岳	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第28～29号	22日、29日 16時00分	ボンマチネシリ96-1火口の噴煙活動は活発な状態が継続。2025年9月からのボンマチネシリ火口方向が緩やかに上がる傾斜変動は、5月9日頃から火口方向が下がる変化に転じたが、火口付近浅部は引き続き膨張した状態と考えられる。5月10日から増加していたボンマチネシリ火口付近の火山性地震は、14日以降、減少傾向に転じ、増減を繰り返しながらやや活発な状態で経過。火山活動の活発な状態が継続しており、今後も噴火が発生する可能性がある。
岩手山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第18～22号	1日、8日、15日、 22日、29日 16時00分	「だいち2号」及び「だいち4号」の2023年11月から2026年5月の観測データを用いた、国土地理院のSAR干渉解析では、2024年以降、大地獄谷周辺及び岩手山西部周辺で衛星に近づく変動が見られていたが、2025年10月以降、ノイズレベルを超える変動は見られない。大地獄谷付近のごく浅いところの膨張は概ね停止していると考えられる。2024年2月以降の東岩手山のやや深部の開口割れ目や山体西側やや深部の膨張を示す地殻変動は、2026年4月初め頃から概ね停滞していたが、5月24日頃から一部観測点で、山体膨張の可能性を示すわずかな変化を観測。大地獄谷の噴気、地熱域及び地表面温度に特段の変化は認められない。黒倉山付近で発生している微小な火山性地震は、少ない状態で推移したが、2024年5月以前よりは多い状態が継続。引き続き、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2km範囲に影響する噴火の可能性はある。
草津白根山 (白根山(湯釜 付近))	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第59～62号	1日、4日、8日、11日 16時00分	火山性地震は日回数が0～2回で、湯釜付近の地震活動は3月頃から低調。火山性微動は、2025年11月以降なし。湯釜地下浅部の膨張と考えられる緩やかな地殻変動や地下の温度上昇を示唆する全磁力の変化は鈍化し、4月上旬に概ね停滞。また噴気の化学成分比も、火山活動の低下を示唆する変化。4月上旬には噴火警戒レベル2判定基準を上回る現象が観測されなくなる。
		噴火予報 (警報解除)	15日 11時00分	地震活動は3月頃から低調な状態で推移、地下浅部の膨張を示すと考えられる地殻変動は、4月上旬には概ね停滞。その他の観測データについても、火山活動の低下を示唆する変化が認められる。火山活動が静穏時の状態に戻る傾向が明瞭になっており、湯釜火口から概ね1kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなった。
	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第63号	15日 11時10分	地震活動は3月頃から低調な状態で推移。火山性微動は、2025年11月以降観測なし。湯釜付近の地下浅部の膨張を示すと考えられる緩やかな地殻変動や地下の温度上昇を示唆する全磁力の変化は、4月上旬には概ね停滞。噴気の化学成分の濃度比についても、火山活動の低下を示唆する変化が認められる。火山活動が静穏時の状態に戻る傾向が明瞭になっており、湯釜火口から概ね1kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2から1に引き下げ。近年、湯釜火口への熱水や火山ガスの一時的な供給量の増加に伴うと考えられる地震の増加や傾斜変動などを繰り返していることから、火山活動が急変する可能性もある。

令和8年5月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第35～40号	1日、4日、8日、 11日、15日、18日 16時00分	火山性地震はやや少ない状態で経過。2025年7月頃から減少が続き、本年3月下旬頃から前1か月平均30回/日程度、4月下旬から前1か月平均30回/日を下回る。山体西側での膨張と考えられる傾斜変動は、2024年5月以降停滞。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2025年6月頃から次第に減少、12月頃から2023年3月以前の水準に戻る。噴火警戒レベル2の判定基準を上回る現象が観測されなくなってきた。
	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	噴火予報 (警報解除)	22日 11時00分	本年3月下旬以降、山体浅部を震源とする火山性地震が、前1ヶ月間平均の日回数で概ね30回以下と減少。その他の観測データでも火山活動の高まりを示す変化はみられない。 火山活動は低下しており、山頂火口から500mを超える範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと考えられる。
		解説情報 第41～43号	22日 11時10分 28日、29日 16時00分	山体浅部を震源とする火山性地震は、2025年7月頃から減少傾向が継続し、前1ヶ月間平均の日地震回数は、本年3月下旬から概ね30回で推移、4月下旬からは30回を下回る。山体西側での膨張を示すと考えられる傾斜変動は、2024年5月以降停滞。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2025年6月頃から次第に減少し、同年12月頃からは2023年3月以前と同程度の少ない状態。山頂火口からの噴煙量も少ない状態で推移。 浅間山の火山活動は低下しており、山頂火口から500mを超える範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと考えられる。11時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2から1に引き下げ。(22日) 山体浅部の地震活動に変化。24日頃から微小地震を含む高周波地震が増加。火道内の圧力の高まりを反映していると考えられ、突発的な火山灰噴出などが発生しやすい状態になっている可能性がある。(28,29日)
霧島山 (新燃岳)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第18～22号	1日、8日、15日、 22日、29日 16時00分	9月8日以降噴火はない。15日と18日の現地調査で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、100～200t/日とやや多い状態。火口直下の火山性地震は増減を繰り返しており、今期間は少ない状態で経過。火山性微動は3月6日以降なし。 GNSS観測で霧島山を挟む一部の基線で、2025年3月頃から深部の膨張を示すわずかな伸びが認められたが12月中旬頃から停滞。新燃岳付近の膨張を示すと考えられる基線の伸びは7月以降認められない。 火山活動が高まった状態が継続。引き続き噴火の可能性はある。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第18～23号	1日、8日、15日 16時00分 17日 09時00分 22日、29日 16時00分	硫黄岳火口で、17日02時07分に噴火発生。噴煙は火口縁上400mまで上がる。大きな噴石は観測されなかった。噴火を観測したのは2025年12月29日以来。 硫黄岳火口では、白色の噴煙と夜間に高感度カメラで火映を観測。火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動なし。GNSS観測の島内の一部の基線で、2026年2月頃から薩摩硫黄島と竹島間の膨張に対応する変化を観測。 長期的に熱活動や噴煙活動が高まった状態が継続。火口周辺に影響する噴火の可能性はある。

令和8年5月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第18～22号	1日、8日、15日、 22日、29日 16時00分	御岳火口で時々噴火発生。爆発なし。 高感度の監視カメラで火映を観測。御岳火口から南南西約3.5kmの集落で降灰、鳴動を確認。火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動は時々発生。GNSS連続観測で、2024年10月以降、島の西側のマグマの蓄積量の増加を示唆する変動は、2025年11月頃から停滞。 長期にわたり噴火活動が継続し、御岳火口周辺では、大きな噴石飛散の可能性がある。
十勝岳	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第3号	1日 11時00分	4月28日の現地調査で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は約1200t/日、北大の4月30日の現地調査でも、同程度の火山ガス（二酸化硫黄）を観測。1000t/日程度の火山ガス（二酸化硫黄）の観測は、2023年3月以来。62-2火口、振子沢噴気孔群及びその周辺で噴煙・噴気が多く、熱活動が活発な状態が継続。62-2火口付近のごく浅いところを震源とする一時的な火山性地震がときどき増加。今後の火山活動の推移には注意が必要。
口永良部島	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第1～2号	15日、22日 16時00分	5月3日から古岳付近の浅いところを震源とする火山性地震が一時的に増加。17日頃から減少傾向。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、100t/日を下回り、少ない状態で経過。遠望観測、地殻変動観測では、変化なし。12日から14日の現地調査では、噴煙の状況に変化なし。古岳の火口内と新岳及び古岳周辺の地熱域でも変化なし。火山活動活発化の兆候は認められない。

注1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2) 雌阿寒岳、岩手山、草津白根山(白根山(湯釜付近))、浅間山、霧島山(新燃岳)、桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報(定時)を発表している。草津白根山は15日8時で、浅間山は22日8時で終了した。